



発行所 上田染谷丘高校 新聞委員会 学友会 発行人 代表 編集 印刷所

明日卒業式 318名 夢へのスタートライン

第70回卒業証書授与式が明日3月3日に挙行される。卒業生は普通科278名、国際教養科40名で、男子130名、女子148名。平成27年(2015年)4月に入学し、充実した高校生活を過ごした。卒業生の今後の活躍を祈りたい。

旅立ちを迎える皆さんへ

校長 宮崎 清孝 先生



小中高と年数を重ね、その中で様々な成長を遂げてきた3年生の皆さん、卒業おめでとう。小中学校での卒業と大きく異なるのは、自分が小さかった頃からの夢の実現に向かって至近距離に入ったことです。その夢が、ある職業に就くというところもあるし、外国に行くというところもある。たやすく到達できるものもあれば、ハードルが高くて到達点が見えないものもある。ある有名シェフの話です。自分がその味にほれ込んで働きたいと思った店では求人をしておらず、雇ってもらえませんか。彼は諦めず、時期をずらして何度もお願いし、何とか働かせてもら

うことができたのですが、その店では以前の職場より労働環境は悪く、店主も大変厳しい人でした。やっと入れた店だったので、必死で働いたそうです。今振り返ると、あのつらい日々を乗り越えたことが大きな自信になりました。その後フランスに渡り、やはり自分が一番働きたい店で、すぐに働くことができました。何度お願いしても断られ、やむなく別の店で働き口を求めましたが、どうしてもその店で働きたくて、もう一度頼んだところ研修生(無給)ならと入れてもらったそうです。彼はがむしゃらに働きまわった。朝早く店に入って自分の仕事を片付け、ほかの仕事も進んで引き受けました。そしてようやく雇ってもらえることになり、さらに1年後には副料理長になっていたそうです。彼は言います。「職場選びでは、自分がどうしても

と力もつき、やがて結果も出ます。自分が変われば、環境も変えることができるのです。」 (「抜萃のつゝり その十七 岸田周三」新出巻を迎える人へ)より) 皆さんの目の前の海は今が平穏かもしれないが、嵐の時には牙をむいて襲いかかることもあるでしょう。海原を乗り切れることは楽なことではありません。誰かが助けてくれることもありませんが、自分の必死さがなければ人だつてわかってくれるわけはありません。とりあえずはがむしゃらに自分の目標に食らいつきましよう。その先に何があるかかわらないが、気がついたら目と鼻の先にあったというくらいに必死なら、手を差し伸べてくれる人はいるはずで。皆さんのこれから期待しています。

弧掌難鳴

三学年主任 赤羽 道人 先生



本校に入学し新たな環境の中で様々な出逢いがあったはずだ。生涯の知己を得た者もいよう。卒業式を迎えた今、人生は出逢いと別れという思いが胸中を去来する。 「弧掌鳴らし難し」という言葉がある。左右の掌を打ち合わせなければ音は出せない。つまり、人はひと

りでは生きていけないということを訓(おし)える。 翻って、一方の掌が自分だとすれば、他方は君の周りにいる人である。様々な掌が存在し、打ち合わせる掌が違えば、当然ながら生ずる音は異なる。この染谷で様々な掌と出逢い、多くのドラマを生み出してきたことを思い返せば瞭然である。 四月からは各々新たな環境に身を投じる。そこには多くの新しい掌が待っている。勇気を持って自分の掌を差し出し、様々な音色を高らかに奏でてみようではないか。

卒業生からのメッセージ

人一倍の努力を 弓道班副班長 黒沢 昂汰

誰より練習しても、結果を出せずに後悔することもありません。だけど、人一倍努力すれば「こんなになっても勝てなかったのだ」と後悔を緩和することができま。一回きりの人生、優勝した、結果を出したというより人一倍努力したという証のほうが今後の人生にもつながると思います。悔いなく終えてほしいという気持ちとともに、後輩の健闘を祈っています。頑張れ!

今しかできないことを 吹奏楽班班長 高見澤 歩生

高校生になってから、私は親とぶつかることが多くなりました。親なんていなくても生きていけると思っただけでもありました。でも私が今生きているのは親が生んでくれたからです。親がいなかったらこの世にいないし、今こうして文章も書いていません。

大袈裟な書き方をするなあと、自分も思いますが、一度、自分の命について考えてみてほしいのです。高校三年間の中で一度でもいいから、親に「産んでくれてありがとう」と伝えてほしいのです。そして、今ある命を大切にしてください。生きていくのだからこそ、思いっきり班活をして、思いっきり勉強して、思いっきり高校生活を楽しんでください。高校でしかできないことはたくさんあります。絶対楽しまなげな損ですよ。

スローガン決定 We Are



学友会 新年度の準備が進む

昨年11月7日に二斉委員会が開かれ、新体制での方針や計画が確認された。常任委員会も毎週開かれ、話し合いが進められている。学友会長の番場翔君に新年度の活動方針や計画について聞いた。

「新年度の学友会の活動方針は何ですか 染谷のこれまでの大切にしてきた文化を守り、そしてさらに発展させていけるようにします。校則や交通マナーの遵守というしっかりとした「土台」の上に、

班活動や文化祭の充実などの活動を行いたいのです。最も充実させたい活動は何ですか やはり、「文化」と名のつく文化祭(染谷祭)を充実させたいです。新しいスローガンは何ですか 「We Are」です。この後に続く言葉は人それぞれ違うと思いますが、決して「and」ではなく「We are」であってほしい、このところどこかでつながってほしいという願いを込めて決定しました。

2月9日に発行された学友会通信第1号のタイトルも同じく「We Are」だ。題字は書道班が書いた。会長「染谷生が一体となれるように気持ちを込めて書いてほしい」と要望したところ、素晴らしい題字となった。染谷生の一員であることに誇りを持つような、そして一人ひとりの活躍を皆で共有できるように取り組みに期待したい。

学友会役員一覧

Table listing student council members and their roles, including positions like 会長, 副会長, 会計局, etc., and names like 番場 翔, 白井 悠介, etc.

新人戦で大活躍

昨秋からの新人戦で各班が奮闘した。大会を終えた染谷生は、春の大会に向けてトレーニングに励んでいる。現在の気持ちを聞いた。

■ソフトボール班
 一どのようなチームですか
 経験者は少ないですが、ひたむきに努力を重ね、常に笑顔と向上心であふれている自慢のチームです。

新人戦に向けてとくに力を入れたのはバッティングです。より遠くに飛ばすためにはどうしたら良いのかを考え、遅いボールや変化球の対策もしました。

一春の大会での目標は秋の大会では悔しい思いをした反面、これからの課題が見つかりました。北信越大会出場を目標に掲げ、班員全員が守備はもちろん攻撃面でもよもよめバールアツ



ソフトボール班

プし、自分たちの最大の武器であるチームワークの良さ、笑顔をかきしめたいのな試験をしたいです。(2年2組小林さくら)

■ハンドボール班
 一どのようなチームですか
 「一度流れに乗ると止められない」。これが染谷丘高校ハンドボール班です。私たちは班活だけでなく、学習との両立も大切にしています。班活中には声を出し、自分たちが練習しやすい環境を作っています。

新人戦では県大会ベスト4になると出場することが出来る「県選抜最終予選」に出るためチーム一丸となって練習に励みました。

一春の大会での目標は秋の大会で悔しい試合を経験できたことで、チーム



ハンドボール班

として成長できたと思えます。一勝一勝全力で戦い、勝利を目指すことはもちろんですが、準決勝になったときに勝てるようなチームになっていきたいと思えます。(2年6組 小松舜)

■弓道班
 一どのようなチームですか
 一人ひとりが向上心をもって練習に臨んでいます。先生方に指導していただき自分なりに考え、班員どうしで話し合っ理解を深められるようにしています。

一春の大会での目標は今年大会では惜しくも全国大会・北信越大会の切符を逃してしまい、精神力の強さが大切だということに気づかれました。冬には大会がなく基礎を見直すことができるので春の大会では秋の大会の結果を越えられるように頑張っていきます。(2年4組北澤英知)



弓道班女子Bチーム

- ### 新人戦結果
- 野球：東信大会出場
 - サッカー：県大会出場
 - 陸上：男女とも4×100mリレー県大会出場
 女子は県大会決勝8位
 内堀が北信越大会800m決勝8位
 - ソフトボール女子：県大会ベスト8
 - ハンドボール男子：県大会3位
 - ハンドボール女子：県大会ベスト8
 - ソフトテニス男子：近藤・古屋ペアが県ベスト16
 - ソフトテニス女子：Aチームが県大会ベスト8
 - 硬式テニス男子：団体が県大会出場
 - 硬式テニス女子：団体が県大会ベスト8
 - 水泳：中村が50mバタフライで県大会ベスト8
 - バドミントン男子：学校対抗 県大会出場
 - バドミントン女子：学校大会 県大会出場
 松林が県大会ベスト16
 - バスケットボール男子：県大会出場
 - バスケットボール女子：県大会出場
 - バレーボール女子：県大会出場
 - 卓球男子：団体 県大会出場
 - 卓球女子：団体 県大会出場
 - 剣道：県大会ベスト16
 - 弓道：女子Aチーム県大会ベスト4
 女子Bチーム県大会ベスト8
 - 軽音フォーク：さいごらごん(病)が東信大会ベスト8
 - 放送：県大会朗読部門で窪田が優良(北信越及び全国大会へ)
 TVドラマ「He-story」最優秀
 - 書道：小山が全国大会推薦
 - 音楽：アンサンブルコンテスト出場
 - ESS：PDA全国大会出場
 - 美術：県展に参加
 - ギターマンドリン：総文祭プレ大会に参加
 - 吹奏楽：アンサンブルコンテストに出場

修学旅行に行ってきました

10月2日～5日
 2年普通科 沖縄
 2年国際教養科 台湾



(平和の礎でセレモニー)

沖繩修学旅行

バスガイドさんによると一年のうち全く雲のない快晴の日は約10日間しかないそうですが、修学旅行中の3日間は快晴で天候に恵まれました。

一日目は平和講演会で講師の中山きくさん(88)からお話を聞きました。中山きくさんは1945年6月の沖縄戦当時、16歳で白梅学徒隊として第一野戦病院の看護助手を務めていました。とにかくひどい環境の中で

台湾修学旅行

初めて海外に行く人もいたので、ワクワク・ドキドキが始まりました。台湾に到着してまず向かった場所は「龍山寺」です。「龍山寺」は台湾で最も古く、第二次世界大戦後に再建築され、地元の方にも有名なお寺です。そこでは日本とは違った台湾式参拝方法などを学びました。このお寺のおみくじは、変わった引

き方のおみくじでそこもまた台湾を味わえることができました。



(龍山寺にて)

の学生もいました。その後、台湾の学生といっしょにスポーツをしての楽しいコミュニケーションを取り、貴重な文化交流の時間を過ごすことができました。次に、西門町へ行きました。西門町とは、台湾の原宿、渋谷とも呼ばれて若者の情報発信基地となっています。台湾の高校生と一緒にまわり最新のグルメなどを堪能しました。

次の日は午前中に、故宮博物館に行き、午後は九份老街、中正記念堂に行き台湾の歴史を学びました。九份はジブリ映画「千と千尋の神隠し」のモデルとなった場所なので見るのができ、良い思い出となりました。最終日は台湾で一番高いとされる台北101ビルでショッピングを楽しみました。今回の修学旅行を通して、グローバルな視野で活躍するための経験を得られた実りのある旅行となりました。(この記事は国際教養科の生徒へ取材し北村亮が担当しました)

税について考える その①

新聞委員会が税務署を取材

税を考える週間(昨年11月11日～17日)にあたり本校新聞委員会と上田染谷丘高校新聞委員会と上田染谷丘高校新聞委員会が上田税務署を取材した。本校からは三河ひより、西澤真輝、高橋明寿香(写真)

の3名が、税務署の仕事や税金の使い方、税の課題、高校生へ伝えたい話などを聞いた。

税務署はどんなことをする場所なのかを、長谷川美佐子さん(48)にたずねると「税務署の主な仕事は課税の徴収やそれに関する相談、審査、酒税の徴収などです」という答えが返ってきた。課税には個人に課される個人課税と会社などに課される法人課税、個人や

法人の資産に課される資産課税の三つがある。特に個人課税については、個人事業での一年間の会計結果を確定申告する確定申告の申請相談が、期限日前の2月15日～3月16日に多く聞かれる。税務署は、この期間がいちばん忙しくなるのだともいう。

税金がどのように使われているのかについて長谷川さんは「国民から集められた税金は、いろいろなことに使われていますが、もっとも多く充てられているのは社会保障です」と話す。社会保障とは医療費や年金



や介護費などで、何かの理由で支援が必要な人を援助するための社会的サービスである。この社会保障にもっとも多く税金が使われているというのには、働き手の減った日本の現状と関係しているのかもしれない。また、長谷川さんは「長野県に限って見れば、税金は教育費にもっとも使われている。およそ月8万円、年100万円という額が一人につき充てられています」ともいう。これは長野県の子どもの将来を担う存在であるという考え方が根幹にあるからだ。(次号に続く)

初めましての編集でしたが、いかがでしょうか。次号では染谷をより知ってもらえるような新聞制作していきたいです。

新しい代になって初の新聞はいいかだったでしょうか。今後も皆さんの期待に応えられるように努力していきたいと思えます。(委員長 三河ひより)

お詫び 12月に日韓文化交流基金による韓国訪問に21名が参加しましたが、紙幅の関係で掲載できません。次号で紹介いたします。

編集後記